利用者支援の基本に立ち返る
～「強度行動障害支援者養成研修」を研究してみた！～

【キィワード：　本人の困り感に気づけるか　コミュニケーション　意思確認　】

所属　　ともの家　　氏名　犬塚朱美

１、安心して、生き生きと生活したい

現在、ともの家には強度行動障害を起こす仲間はいません。しかし、支援に悩む仲間はいます。毎日の職員の終礼で話題にあがる問題においても解決方法がすぐに見つからないこともあります。
また、直接本人の問題として悩まなくても、私達は今の支援で良いのだろうか？彼らが日々生き生きと生活するためにはどんな支援が望ましいのだろう？
という疑問は常にあります。
そんな日々の疑問をどのように考えて実際の支援に結びつけていけば良いのか？こんな思いで研修に参加し、考えてみました。

２、強度行動障害とは

・自分の身体を叩いたり、食べられないものを口に入れたり、危険につながる飛び出しをする等、本人の健康を損ねる行動をする
・他人を叩いたり、物を壊す。大泣きが何時間も続くなど、周囲の人の暮らしに影響を及ぼす行動をする

以上の 2 つの行動が著しく高い頻度で起こるため継続的に特別に配慮された支援が必要になっている状態

「困った人」ではなく
「困っている人」と解釈しましょう

３、強度行動障害になりやすい人？

重度の知的障害と自閉症の特徴を合わせ持った人です。
・重度の知的障害の特徴は？
・自閉症の特徴は？

４、どうして強度行動障害になるのか？

その人の**障害特性と障害特性に対する配慮が不十分な環境との相互作用**で起こります。
事象がわからない、事象が伝わらないという状況の積み重ねから不安要素が増し、人や物に対して不信感や嫌悪感を抱き、これらが問題行動として表出されます。
無理に止めることは出来ません。

５、どういった支援をすればよいか？

本人が安心して過ごせる環境をつくることが大切です。
問題行動を直接やめさせる対応をするのでなく、その人が現在の生活に適応できるための支援をしていくことです。
すなわち、そのような環境を作るには、まず利用者一人ひとりを理解する必要があります。特に自閉症を持つ人に対しては私達とは違う感覚を持った人だと理解する必要があります。

・障害特性の理解する
・特性に配慮した環境作りをする

一人ひとり違う

６、　支援において重要なこと

・行動障害は、様々な要因によってつくられた『二次的な障害』と理解

私達の支援も要因のひとつである。（伝え方、やり方の押し付け、意思確認などを支援者主体でしてはいないだろうか？こちらの都合のいいように、彼らを動かしていないだろうか？）

・支援を組み立てる視点は『行動障害をつくらないようにすること』

支援の原則がある。

・行動障害を起こしてしまっている人には、障害特性・環境要因・前後の状況などを分析してからの支援と振り返りが大切

・問題行動はコミュニケーション障害と密接な関係があるため**固有のコミュニケーションの理解が大切**

伝達に最も重要な役割を果たすものは言語ですが、言葉だけが、意思や感情の伝達を担っているわけではありません。コミュニケーションが成立するためには

① 受信（意思・感情・意図が理解できる）
② 発信（意思・感情・意図が表現できる）
③ 通じ合いたい気持ち（伝えたい気持）

この３つの要素が必要です。

７、　感想と考察

ともの家では報告書をまとめる他に職員等を中心に自分が研修した内容を報告発表する場があります。発表するにあたり、仲間一人ひとりの顔が浮かび、私は彼らの障害名や障害の特徴は把握しているものの一人ひとりの障害特性を何となく知っていただけで、じっくりと探ったことがないことが分かりました。

行動障害はつくられた二次的障害であり、私達支援者も環境要因のひとつであります。彼らの生活の質を良くすることも悪くすることも出来る存在だとすると、平穏無事に日々を過ごすのではなく彼らが主体的に自分らしい生活をいとなむ為には**どうしたらよいか**と常に疑問を持って支援をすることを忘れてはならないと改めて思いました。

強度行動障害支援者研修は強度行動障害に特化した内容ではありましたが、日常の支援の中で十分に考えていくべき要素がいっぱい詰まっている研修であったことを感じます。

仲間一人ひとりをよく知るためには、アセスメントを丁寧に行い、障害の特徴を学び、本人の障害特性を考え、成育歴や変化する家族環境も知ることが大切。

強度行動障害を起こしてしまっている場合、問題が起きてから原因を探り、対策を立てて環境を構造化していくということは、時間も労力も必要であることが分かりました。そうであるならば、**日頃から仲間を正しく理解して、個々に合った作業・活動・生活を組み立て、小さな変化を記録し、彼らの意思を確認し、職員はチームとして根拠のある支援をしていけば、**強度行動障害は起こさずに済むことができるでしょう。

彼らの身近にいる支援者として、

・仲間のやろうとしていることに気が付ける目線を持つ
・仲間の視点に立ち、困りごとを理解し、困らないようにするには、どうしたらよいかを推測し考え、喜びを共感できる心を持つ
・仲間の自分らしく生きる力を尊重し、支援できるチームの一員である

これらを常に目指したいと思います。

利用者支援の基本に立ち返り
「強度行動障害支援者養成研修」を研究してみた
～困ったこと、問題がないからこそ～

【キィワード：コミュニケーション】

所属　　氏名
ともの家　　北條　麻理

１、事例

Ｎさん　女性　30代　自閉症
ADLはほぼ自立
言葉はエコラリア
療育手帳Ａ　区分５
アトピー性皮膚炎
静岡県立北養護学校卒業後
ともの家に就職して19年
家族構成は父・母・姉２人・Ｎさんの５人。現在は父、母と暮らしています。
ともの家には父の送迎で来ています。

２、人柄

内向的な性格でもの静かです。表情のやわらかい時は、時折鼻歌が出ます。
仲間の中にいることは苦手ではないのか、いつも　みんなのそばにいます。
自らコミュニケーションをとることはありません。
問い掛けに対しては、ほぼオウム返しで答えます。

３、Ｎさんの生活

月～金　ともの家
土日はパズルをして過ごす。
通院歴　歯科・静岡てんかんセンター
皮膚科
移動支援を利用して外出（月１回程度）

4、Ｎさんの仕事

「おはようございます。お願いします」と製菓室に入って１日がスタートします。
手洗いをしてから、カットされたクッキーを鉄板に並べます。数は数えられませんが、形で認識し、正確に並べることができます。
焼きあがったクッキーを種類ごとザルに分けます。
袋のシール貼りでは、見本を重ね合わせ貼っています。
午後の作業では、クッキーの袋詰めです。
数が書かれているシートにクッキーを並べて、袋にきれいに入れることができます。
作業中は、Ｎさんが困らないように、なおかつ、効率よく作業が進むように環境を整えてあります。

作業台の配置を変えたり、Ｎさんの特性でもある模倣する力が発揮できるようにサンプルを用意しています。（構造化）

5、Ｎさんをもっともっと知るために研修の中で学んだことを試してみた

6、障害特性

【言語】
・オウム返し
【音】
・泣いている人が苦手
・苦手な音がある
（油がはねる音・ビニールがすれる音）

・風船が苦手
【場所】
・新しい場所が苦手
・人ごみが苦手
【視覚】
・光、イルミネーションが苦手

【強み】
・細かい作業が得意
・人は苦手ではない
・記憶力が良い
・模倣が得意

7、もっとＮさんを知りたい

日中は、時折一人でふふっと笑ったり鼻歌がでます。それ以外は黙々と作業をしています。そんなＮさんを見ていて「何をしている時が楽しいのかな？」「仕事は楽しくやれているかな？」「好きなのかな？」「やりたくない」って感情はないのかな？と色んなことを考えていたら
Ｎさんのことをもっともっと知りたい！
と思いました。

8、本人の意思を確認するために取り組んでみたこと

・やる・やらない、2択のカードの提示
紙に書かれた文字を指さし、文字をそのまま読むだけでした。（当然の結果です）
・外出先でメニューの写真を提示
見た事があるもの、知っている物だったため食べ物の名前を言うだけで選ぶことはできない。
結果は、オウム返しのＮさんにとって自分の意思とはいえないものでした。

9、Ｎさんの困り事が伝わった瞬間（全くの偶然です）

普段は作業中に鼻をかみに隣の部屋に行きすぐに戻ってきます。
その時はかみに行ったまま戻ってこなかったので、おかしいな？と思い様子を見に行くと椅子に座っていました。
「痛いところはない？」と聞くと
「痛いところはない？」と同じように返してきました。「大丈夫？」と聞くと首の後ろを指さしました。普段こちらの問いかけに対してオウム返しのＮさんが
「自分が大変なんだ」ということを伝えているようでした。
立ち上がろうとしないＮさん。親に連絡を入れ迎えに来てもらいました。結局、Ｎさんは生理３日目ということで、体調がすぐれなかったのでは？と推測しました。
ものすごく調子が悪かったら動かない、起き上がらない、痛いところを指差す、顔をしかめるなどの発信はできるのかもしれません。しかし、言葉を発信することのできないＮさんにとって自分の意思や思いを伝えることはとても難しいことです。しかし、難しいからといって、分からないからといって私たち周りが決めつけるのではなく、必ず本人の意思や思いはある。その思いに私たちが気づけるか、思いをくめるかがとても重要ですが、最も難しいことです。

１０、Ｎさんの豊かな生活とは・・・私たちの役割

区分の評価だけ見れば「５」
生活介護のメンバーです。しかし、今のクッキー工房は彼女の働きで成り立っているといっても過言ではありません。作業に関しては何の問題も表面化していません。工賃も平均１万７千円です。
ともの家が安心できる心地良い場所であり、心がほぐれる良い状態であれば
お互いの気持ちが寄り添う場面があるとの思いで関わってきましたし、現在大きな問題はありません。しかし、これでＮさんの人生が完結してよいのか
作業所の仲間として､Ｎさんとのコミュニケーションや意思決定支援の手立てや具体策に今後も悩みながらＮさんにとって私が心許せる相手になれるようにお付き合いしていきます。

意思決定支援
～人それぞれの世界観を知る～

【キィワード：コミュニケーション】

所属　社会福祉法人　復泉会　ワークショップくるみ　氏名　佐々木　憂子

１、人はそれぞれ違う

ワークショップくるみに通う仲間達は 22 名（R2.11 月末現在）。全員、顔、性格など同じ人はいない。職員も同じ。皆違うからおもしろかったりするし、他者の世界観を知る事ができる。他者の世界観を知る方法は様々。というのも、人はそれぞれ違うから。100 人いたら 100 通りあると、この仕事をしていて感じます。

２、事例

細かい事によく気づき、くしゃくしゃな笑顔と大きな笑い声、明るく元気ハツラツパワー全開 40 代女性（知的）の S さん。一方的に話す事は好き。でも、胸に秘めた想いや考えはいつもあって、言葉でうまく伝えられないから、困ったり、イライラしたりなんだか顔つきが暗い日があります。そんな時は朝、最初に会う職員に、事柄のキーワードとなる様々な単語を必死に訴えます。「〇〇さんが…」「あれじゃん」「わたしやってない」「ぱちんした」「わからんわからん」単語をつなぎ合わせても、背景が見えません。話は行ったり来たり、S さんは解消も解決もしません。

3、対応

①出来る限り S さんが熱いおもいを持っている状態で向き合う。また、話す場所や環境を設定。相談室で S さんと職員が横並びまたは、机に対し直角に座る。

②S さんからの訴え、単語のキーワードを文字で表現し紙に書き込む

③S さんの感情、行動、関係がある人物や物などを絵で表現し書き込む

④話の流れを②③をもとに、順序立てし整え整頓していく

⑤S さんと一緒に今後の作戦（解消解決方法）を文字、記号、絵で表現し練る

4、結果

S さんが今まで使ってきた言葉や、知っている言葉、見て覚えた経験から絵や記号をかき、背景や伝えたいことを共通にした事で、1 つ 1 つ解消解決に導く事ができた。また、必要に応じて、相手に伝える為のツールを一緒に考え作成。困った時のアイテムをゲット！安心材料ができた。

5、考察

S さんは、人に聞かれたくない話は別室で話すことを望み、事の重大さを分かってほしいから、あえて相談室（個室）で話したい。人と目を合わせることが苦手。正面で座って話すとリラックスできない。また、いつもの口調と仕草が更に早くなってしまい、表情も暗くなっていくので、横並び、または、机に対し直角に並ぶことで、喜怒哀楽の状態のままで話ができる。その人に合わせ、話す場所は重要。紙に、文字や絵をかきだすことで、訴えたい背景が共通となる。また、S さんと一緒にこれからどうしたいのか、文字、絵や記号で確認し合い S さんが使いこなせるアイテムを一緒に作る事で解消解決へとつながった。主語、述語、修飾語を組み合わせた文法を S さんに伝えても伝わらない。絵や記号で表現できる言葉を伝える事が、解消解決につながる。それが S さんの世界観。今でも S さんとのお話会は継続中。今では、自分からお話会の日時、場所を提案。また、表現方法にも変化がある。S さんは少しずつ自分で決める事が当たり前になりつつある